株式会社トランスジェニック

一人ひとりの健康と豊かな暮らしの実現をめざして

株主のみなさまへ
第23期報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

株式会社トランスジェニック

証券コード 2342

ご挨拶

代表取締役社長　福永健司

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第23期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、「未来に資するとともに、世界の人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを目指しております。

この経営理念を実現するために、グループでは基礎・探索研究から、非臨床、臨床及び診断・解析まで網羅したサービスを行う創薬支援事業を展開するとともに、グループの収益基盤強化を目的として事業承継・再生事業分野を対象とした投資・コンサルティングを展開するTGBS事業を営んでおります。

当社は、2021年4月1日より純粋持株会社体制に移行し、成長戦略の新たなステージに進んでまいります。

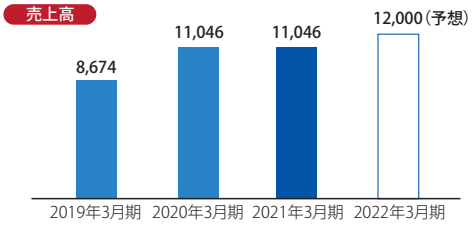
株主の皆様におかれましては、当社の取り組みにご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

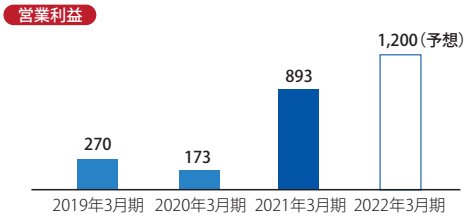
2021年6月

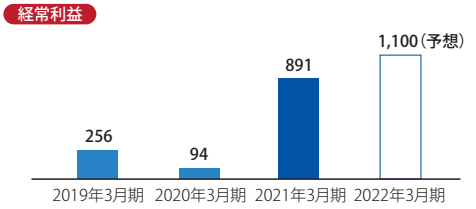
代表取締役社長　福永健司

業績概要

◆第23期連結会計期間の業績　単位:百万円







2021年3月期連結累計期間は、創薬支援事業では、株式会社ジェネティックラボが札幌市及び北海道から新型コロナウイルス検査（PCR検査）の受託を開始しました。また、非臨床試験の受託では、株式会社安評センターにおいて従来の中・小型動物に加え大型動物の非臨床試験の新規受注に注力しました。臨床試験や非臨床試験受託も、WEB面談等を中心とした営業活動の取り組みが定着してきたことを受けて新規受注が順調に回復しました。TGBS事業では、Eコマース事業において巣ごもり需要を意識した売れ筋商品の仕入れにより粗利の確保に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策に対する必要な対応を行いながら仕入・出荷体制の維持に努めました。

これらの結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は、創薬支援事業のPCR検査の受託売上や、2020年3月に連結グループに加入したギャラックス貿易株式会社の売上が寄与したものの、株式会社TGMにおいて大型の機械販売が少なかったこと、また消費低迷による株式会社アウトレットプラザの売上減少等が影響し、11,046百万円（前期比0.0%減）となりました。利益面では、創薬支援事業におけるPCR検査の受託件数の伸長や、TGBS事業のEコマース事業における利益増が大きく寄与し、営業利益は前期比で大幅増益となる893百万円（前期比414.0%増）、経常利益は891百万円（前期比839.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は546百万円（前期は440百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となり、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきまして、すべて過去最高益となりました。

2022年3月期通期業績は、創薬支援事業とTGBS事業について、双方の事業特性を活かしながら事業基盤の拡大を図ることで、売上高12,000百万円（前期比8.6%増）、営業利益1,200百万円（前期比34.3%増）、経常利益1,100百万円（前期比23.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益600百万円（前期比9.8%増）を予想しています。

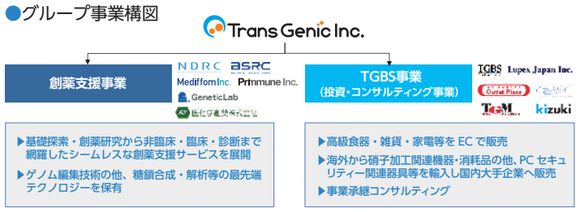
Q1 このたび純粋持株会社化されましたが、その目的と目標をお聞かせください。

A1 当社グループは、M&Aを軸に、2013年4月以降、幅広い創薬支援サービスの提供を可能とする企業グループ構築を、2017年秋以降に損益構造の安定・強化を目的にTGBS（投資・コンサル）事業構築を推進してきました。創薬支援事業グループ構築で黒字体質の目途が概ねつき、TGBS事業が、グループ損益の底上げに貢献するようになった結果、黒字基盤の底上げを継続しつつ創薬支援事業の凸凹の業績変動に応じた形でグループの業績・規模を拡大していく構図が出来てきました。その一方で、グループ会社数が急激に増加していく中で、今後のグループ各社に対するガバナンス体制の強化が経営課題として認識されるようになりました。

この経営課題解決のために、グループ各社の統治に特化した純粋持株会社体制に2021年4月1日から移行することにしました。また、今回の持株会社体制への移行を契機に当社内部の組織変更を行い、グループ事業推進室を新たに設置するとともに、内部監査室の強化を図ることにしました。

純粋持株会社の強み・特徴であるガバナンス体制強化、意思決定システムの迅速化を武器に更なる飛躍と企業価値拡大に向けて、スピードを加速させていきます。

●グループ事業構図



Q2 今般の新型コロナウイルス感染拡大において、グループとしてどのような取り組みをされているかお聞かせください。

A2 当社グループでは、各種検査・診断サービスを展開するジェネティックラボが、新型コロナウイルス感染拡大抑制に貢献すべく、他社に先駆けてPCR検査受託を北海道にて開始しました。同社は、昨年秋以降の急激な陽性者数増加に対応するために検査機器の増設等、検査体制の強化を行っています。

また、新型コロナウイルスに関しては、ウイルスが感染・侵入した人間の体内でどのようなメカニズムで攻撃し、症状を悪化させているのか、十分に解明されておらず、これを解明するためには、よりヒトに近い状態の実験動物の存在が有用となります。このため、当社ジェノミクス事業部遺伝子改変マウスグループ（2021年4月1日に安評センターと統合）では、新型コロナウイルスに関する更なる研究に貢献することを目的に、新型コロナウイルスの受容体であるACE2を、当社の技術を用いてエクソンだけヒト化したマウスの開発を進めています。そして、医化学創薬においては、コロナウイルスの表面にあるスパイクタンパク質のウイルス変異の影響を受けにくい糖鎖領域を識別する抗体を取得し、診断薬・治療薬用途への活用に向けて開発を進めているところです。

当社グループは、今後も、幅広いサービスを展開する創薬支援事業グループの強みを活かし、社会に貢献していきたいと考えています。

Q3 今後の事業基盤強化の取り組みについてお聞かせください。

A3 これまで当社グループは4年毎にステージを上げた課題を設定し経営改革を進めてきました。この4年間（2018年3月期～2021年3月期）に関しては、連結損益構造の安定・強化に向けて、創薬支援事業においては設備及び人員に対する先行投資を、TGBS事業においては当社投資基準に合致する投資先を選定しM&A投資を積極的に行ってきました。この結果、2021年3月期においては過去最高益を大幅に更新し、また、創薬支援事業とTGBS事業という二つの両輪によるHybrid型経営の強固な土台を作ることが出来ました。この4年間の成果を受けて、次の4年間は更なる事業基盤強化・拡大に向けて以下の施策を着実に実行したいと考えています。

まず、連結事業収支の拡大及び財務基盤の強化を背景に、創薬支援事業においては、既存サービスの拡充及び新規サービス導入に向けた設備投資の強化や、高収益事業体確立に向けて、それを支える研究開発活動の強化を行います。次にTGBS事業においても、更なる投資利益拡大に向けて、当社投資基準に合致する案件に対して、これまで以上に積極的に投資を行う方針です。

当社は今後、持株会社体制の元、上記施策を迅速かつ着実に実行していきます。

Q4 2022年3月期の業績予想についてお聞かせください。

A4 当期（2021年3月期）は、新型コロナウイルス感染症拡大がグループ各社の業績に与える影響の予測が困難であったために、当初、業績予想は未定で発表し、当第2四半期決算発表の際に、そこまでの業績トレンドを元に業績予想を発表しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けてPCR検査受託数が11月以降急激に拡大したことから、2カ月後の2021年1月には再度業績上方修正を行いました。

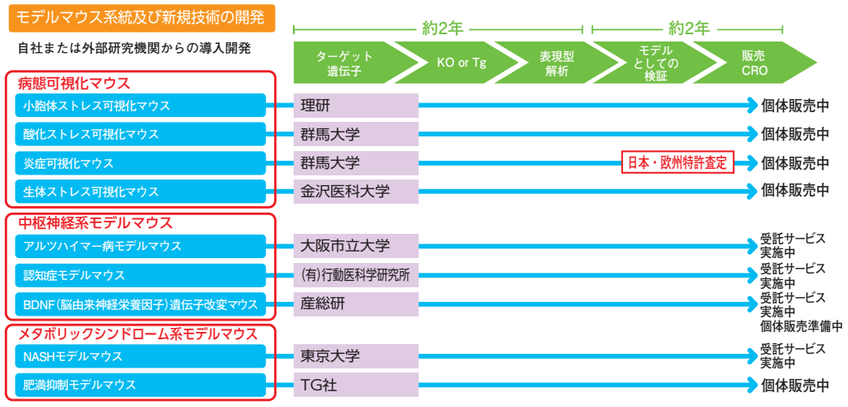
2022年3月期の業績を予想するにあたっても、新型コロナウイルス感染症の動向、及び、それがPCR検査受託数やその他事業にどのように影響を与えるのかについて予測困難な状況が続いています。そこで、ある程度の精度が見込める足元の第1四半期業績予想数値をベースに、保守的な予算設定としていますが、目標達成は勿論のこと、更なる高みを目指して取り組んでまいります。

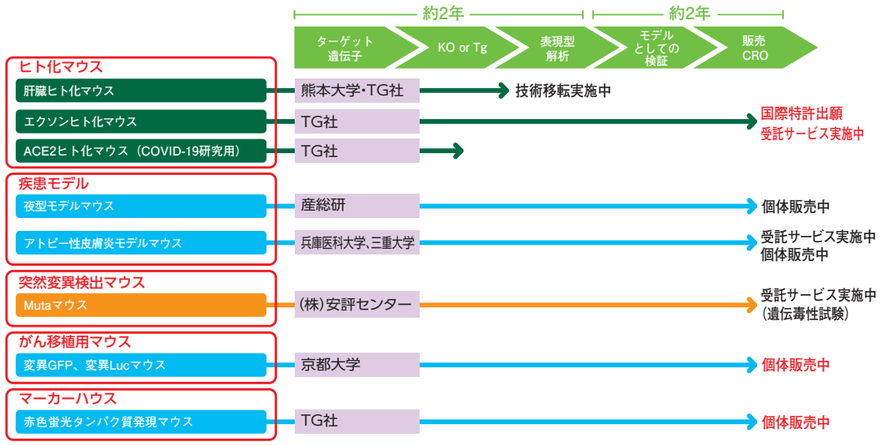
単位：百万円		2022年3月期（通期予想）	2021年3月期（実績）	増減 百万円	増減 %
売上高		12,000	11,046	953	8.6%
	創薬支援事業	4,300	3,583	716	20.0%
	TGBS事業 （Eコマース） （その他）	7,700 (5,000) (2,700)	7,486 (5,283) (2,202)	213 (▲283) (497)	2.9% (▲5.4%) (22.6%)
	本社・連結調整	–	▲23	23	–
営業費用		10,800	10,152	647	6.4%
営業利益		1,200	893	306	34.3%
経常利益		1,100	891	208	23.3%
親会社株主に帰属する当期純利益		600	546	53	9.8%

R&D

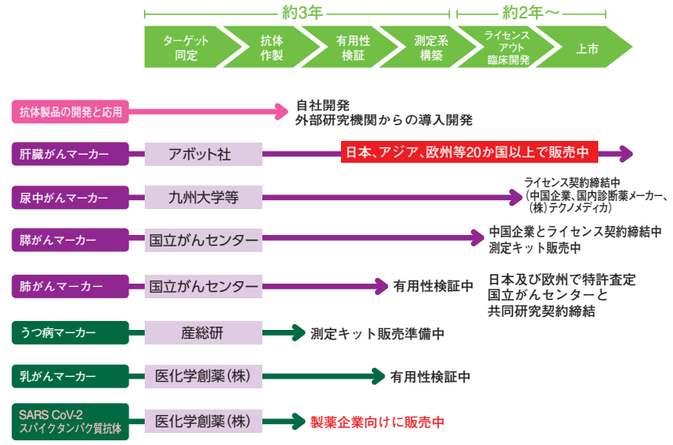
◆研究開発状況

■モデルマウスの導入・開発状況





■開発パイプライン状況：抗体・診断薬・治療薬



会社概要 2021年3月31日現在

会社名	株式会社トランスジェニック
設立	1998年4月
資本金	50百万円
従業員数	25名（単体）248名（連結）
事業所	
本社	福岡県福岡市中央区天神二丁目3番36号
神戸研究所	兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14
東京オフィス	東京都千代田区有楽町一丁目7番1号

役員

代表取締役社長	福永　健司
取締役	北島　俊一
取締役	山村　研一
取締役	船橋　泰
取締役	渡部　一夫
社外取締役	清藤　勉
常勤監査役	友永　良二
監査役	佐藤　貴夫
監査役	本坊　正文

株式の状況 2021年3月31日現在

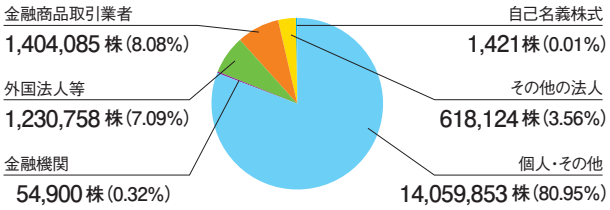
発行可能株式総数	43,630,100株
発行済株式の総数	17,369,141株
株主数	13,439名

大株主の状況

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
楽天証券株式会社	371,300	2.13
BNY FOR GCM RE GASBU	364,900	2.10
株式会社SBI証券	337,806	1.94
松井証券株式会社	296,200	1.70
CREDIT SUISSE AG , SINGAPORE BRANCH - FIRM EQUIY（POETS）	242,120	1.39
株式会社ムトウ	160,200	0.92
株式会社リムジンインタナショナル	152,900	0.88
原田　育生	127,700	0.73
福永　健司	120,800	0.69
藤井　正樹	109,000	0.62

（注）持株比率は自己株式（1,421株）を控除して計算しております。

所有者別株主分布状況



株主メモ

証券コード	2342
上場市場	東京証券取引所　マザーズ
上場年月日	2002年12月10日
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044　東京都府中市日鋼町1-1 TEL：0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081　新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
公告方法	電子公告（当社ホームページに掲載） ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

第23期定時株主総会 決議のお知らせ

拝啓　平素は格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。
当社第23期定時株主総会におきまして、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

敬　具

●報告事項
1. 第23期（2020年4月1日から2021年3月31日まで）事業報告、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容及びその監査結果を報告いたしました。
2. 第23期（2020年4月1日から2021年3月31日まで）計算書類の内容報告の件
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

●決議事項
第1号議案　剰余金の配当の件
第2号議案　取締役7名選任の件
本件は、原案どおり承認可決されました。

IRのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

https://www.transgenic.co.jp/

当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聞かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております

ir@transgenic.co.jp

Trans Genic Inc.